

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 2 部門第 4 区分  
【発行日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公開番号】特開 2000-6551 (P2000-6551A)  
【公開日】平成 12 年 1 月 11 日 (2000.1.11)  
【出願番号】特願 平 10-193790  
【国際特許分類第 7 版】  
B 4 2 D 15/00  
【F I】  
B 4 2 D 15/00 3 3 1 B

【手続補正書】  
【提出日】平成 17 年 2 月 1 日 (2005.2.1)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】特許請求の範囲  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

処方箋用紙 (10) が、裏面に接着剤を塗布した上質紙 (101) と表面に剥離紙を塗布したセパレータ紙 (102) を剥離可能に擬似接着するとともにミシン目 (11) により一方を処方記録部 (12) に他方をラベル製造部 (14) に区画し、上記処方記録部は、上記上質紙と上記セパレータ紙を剥がし該セパレータ紙の剥離剤塗布面にコロナ放電処理をして剥離効果を消失させたのち両者を剥離不可に接着したことを特徴とする処方箋用紙。

【請求項 2】

処方箋用紙 (10) は、コロナ放電処理をして剥離効果を消失させた剥離剤塗布面が、ミシン目 (11) を僅かに越えた位置にまで達していることを特徴とする請求項 1 に記載の処方箋用紙。

【請求項 3】

処方箋用紙の製造方法が、裏面に接着剤を塗布した上質紙 (101) と表面に剥離剤を塗布したセパレータ紙 (102) を剥離可能に擬似接着したタック紙 (100) を原反とし、該タック紙の上記上質紙と上記セパレータ紙をいったん剥がし、当該セパレータ紙の剥離剤塗布面の一部にコロナ放電電流を照射して剥離効果を消失させたのち両者を剥離不可に接着し、コロナ放電処理を施した区域を処方記録部 (12) に形成し、他の区域をラベル製造部 (14) に形成したことを特徴とする処方箋用紙の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0012  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

解決手段の第 1 は、処方箋用紙が、裏面に接着剤を塗布した上質紙と表面に剥離紙を塗布したセパレータ紙を剥離可能に擬似接着するとともにミシン目により一方を処方記録部に他方をラベル製造部に区画し、上記処方記録部は、上記上質紙と上記セパレータ紙を剥がし該セパレータ紙の剥離剤塗布面にコロナ放電処理をして剥離効果を消失させたのち両者を剥離不可に接着したことを特徴としている。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

解決手段の第2は、解決手段の第1において、処方箋用紙が、コロナ放電処理をして剥離効果を消失させた剥離剤塗布面が、ミシン目を僅かに越えた位置にまで達していることを特徴としている。

## 【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

解決手段の第3は、処方箋用紙の製造方法が、裏面に接着剤を塗布した上質紙と表面に剥離剤を塗布したセパレータ紙を剥離可能に擬似接着したタック紙を原反とし、該タック紙の上記上質紙と上記セパレータ紙をいったん剥がし、当該セパレータ紙の剥離剤塗布面の一部にコロナ放電電流を照射して剥離効果を消失させたのち両者を剥離不可に接着し、コロナ放電処理を施した区域を処方記録部に形成し、他の区域をラベル製造部に形成したことを特徴としている。